



自治基本条例の制定を

本郷 敏行 議員

Q まちづくりの基本について。新市誕生は、内外の評価も高く市民の期待も大きい。新市将来構想に示されている高い理想を実現するために、基本となるルールが必要ではないか。自治基本条例の制定について市長の考えはどうか。

A (市長) 自治基本条例については多くの自治体が制定、あるいは検討中である。自治体の役割、市民の役割等を明確にしたものと理解している。自立をめざす自治体として将来的に必要なと考えている。次に田園都市の都市と人間の生活空間であり、安曇野では大都市のイメージではなく小さな村とらえてもよい。田畑、里山、屋敷林など、どう調和をとっていくかが田園都市づくりだ。協働については新しい公共空間づくりの中で行なわれるものである。行政と住民がどのようにかわっていくか、いい方向に育てなければならぬ。

Q 農業の振興策について。農政の転換により地域農業は大変な事態に直面している。約4500戸の農家が担っている水田農業をどう守るか。新政策対応の担い手づくりをどう支援するのか。農業従事者の高齢化と後継者難への取り組みは、農作業受託の第三セクターをつくる考えはないか。また有機農法と米のブランド化についてはどう考えるのか。

A (産業観光部長) 安曇野市の農業は産出額でみると県下ではトップクラスである。半面高齢化と兼業化が進んでいる。また、高価な農機具が過剰投資となり農業経営を圧迫している。

Q 文化交流センターとして3地区で計画されていたものを現在検討委員会では協議している。穂高地域においては芸術文化の領域で輩出してきた人たちの業績を後世へ残すべく施設の検討をしてきた。安曇野には多くの遺産があり全体的な観点で考えなければならぬ。市は残すべき芸術品、文化財を把握しているか。また、これらを後世へ残す施策は。

A (教育次長) 現在市に130件ほどの文化財がある。今後指定基準の統一、見直しをして地域に埋もれているものを把握していきたい。芸術作品については寄贈されたものは美術館、記念館等で保管している。文化を後世に残すためには資料館、博物館も大切である。合併協議の中では文化施設の整理統合にもふれているが遺産の顕彰施設は地域交流学習センターの建設計画の中で検討していく。

Q 文化交流センターとして3地区で計画されていたものを現在検討委員会では協議している。穂高地域においては芸術文化の領域で輩出してきた人たちの業績を後世へ残すべく施設の検討をしてきた。安曇野には多くの遺産があり全体的な観点で考えなければならぬ。市は残すべき芸術品、文化財を把握しているか。また、これらを後世へ残す施策は。

A (教育次長) 現在市に130件ほどの文化財がある。今後指定基準の統一、見直しをして地域に埋もれているものを把握していきたい。芸術作品については寄贈されたものは美術館、記念館等で保管している。文化を後世に残すためには資料館、博物館も大切である。合併協議の中では文化施設の整理統合にもふれているが遺産の顕彰施設は地域交流学習センターの建設計画の中で検討していく。

Q 文化交流センターとして3地区で計画されていたものを現在検討委員会では協議している。穂高地域においては芸術文化の領域で輩出してきた人たちの業績を後世へ残すべく施設の検討をしてきた。安曇野には多くの遺産があり全体的な観点で考えなければならぬ。市は残すべき芸術品、文化財を把握しているか。また、これらを後世へ残す施策は。

A (教育次長) 現在市に130件ほどの文化財がある。今後指定基準の統一、見直しをして地域に埋もれているものを把握していきたい。芸術作品については寄贈されたものは美術館、記念館等で保管している。文化を後世に残すためには資料館、博物館も大切である。合併協議の中では文化施設の整理統合にもふれているが遺産の顕彰施設は地域交流学習センターの建設計画の中で検討していく。

会派の紹介

会派「平」

平のスローガンは「オール・イズ・オープン」、すべては平ら、豊かな安曇野の平ら、そして平林市長の平を重ね合わせたものです。平林市政のもとによって、すべてがリベラルな立場で公平に発想し、豊かな安曇野の平を創造していきます。

基本理念は、「後世の若者たちに恥じることのない合併の成果を継承してもらおう」としています。

会派「日本共産党安曇野市議団」

1922年に創立された日本共産党は、戦前・戦後を通じて反戦平和、主権在民、男女平等を貫き、今年で84年になります。

安曇野市民のしあわせとくらし、仕事の充実のために、全力をあげます。

会派「安政会」

安政会は、安曇野市の「安」自治体の責務である安全・安心の「安」の政治活動との思いを込めた名称です。

活動基本は、二元代表制の真意を受け止め、行政におもねるイエスマンになることなく、首長（行政）の監視・評価する役割を是々非々で取り組み、真の議会制民主主義の確立に努めます。

会派「五一会」

五一会の議会活動理念は、安曇野市の基礎、土台を固め、発展方向を見出していききたいとして、この趣旨に賛同した議員により結成されました。

政策理念は、「旧5町村の流れを一つにし、安曇野市の政策、施策の流れにする」であり、その意味を込め、名称を「五一会」としました。



安曇野の健全な発展を！

藤森康友 議員

Q 継続事業、合併協定書は遵守か、尊重か。

A (市長) 既に着工・計画済みは、それを継続する。合併協定あるいはその他の地域継続事業については、尊重して行くことが原則である。新市の将来を見ながら変更、改善を加え、合意の下で事業を行っていく。

Q 土地利用計画の検討、策定の今後について。

A (都市建設部長) 3年位である程度の方針を固めて、残り2年で合意を得ながら手続きなども行い、最終的に5年を目途にルール作りに当たりたい。

Q 当面5年間の開発行為に対して、どう対処するのか。

A (都市建設部長) 旧5町村が進めてきた地域ごとの指導要綱などを活用しながら対応して行かざるを得ない。

Q 安曇野市の適正人口、受容能力、目標設定は。(企画財政部長) 総合計画を立てるに当たっ

て、一番基本目標になるのは人口である。まちづくり計画においては10年後、10万5千人と設定している。

Q 今後、人口の受け皿、産業別の受け皿を含め、自然環境面や景観などのバランスも考慮して目標設定を考えていく。

Q 将来必要となる投資共建物が展望されるか。

A (企画財政部長) 市民の要望、利用の実体等を含め、調査研究していく過程となる。安曇野市の公共施設は、類似市と比較しても遜色ないほど数はそろっている。しかし、機能や規模的に見ると、市として適正規模なのかという部分があり、市役所、市民会館などという一体的なもの、総合的なものが無い。総合計画の中で、市民の要望と必要性を検討する。

Q 審議会、協議会、委員会などの位置づけとは。

A (市長) 行政内部だけで全て政策形成を行っていくのではなく、準備段

階から外部の方々の意見を聞くというのが、審議会、協議会、委員会だろうと思う。いずれも政策決定に至るまでの参考としての意見書、答申書、報告書であり、施策の意思決定につなげて行く。最終的には議会の承認を得て決めていく。

Q 自主防災の名実伴う環境づくりを。

A (総務部長) 自主防災組織の活動への参加は、他人のためにやらされているのではなく、自分自身が安心して暮らせるために、必要なことであるという認識を市民にも持ってもらうことが必要と考える。

18年度中には地域防災計画を作って行く。避難場所・施設の問題も計画の中にきちんと位置つけていく。



農地の中に点々と進むミニ開発



新年度予算の考察と課題

下里喜代一 議員

Q 338億円(市民一人当たり34万5000円)の新年度予算は、市民要望の福祉・教育・環境・子育て支援に配慮されたものになっているのか。

A (市長) 財源が予想以上に少ないため基金の取り崩しをした。19年度から先、見通しがたかない状況だ。社会保障費は市の責務で増えていくもので、重点的に考えたい。

Q 指定管理者制度、アウトソーシングによって、市職員の関与が弱まる「小さい自治体」でいいのだろうか。

A (市長) 体育館の指定管理者制度導入で効果があがっている例が東京にある。行政がすべての要望を受ける時代ではない。行政サービスのさまざまな内容を見直していきたい。

Q 公共交通網の基礎づくり

A 安曇野市内を結ぶバス路線のルートとして、明科駅・田沢駅・日赤病院・豊科駅・穂高駅を提案するがどうか。

A (企画財政部長) 距離、時間、経費の検証をして、仮想ルートをつくりたい。デマンド交通、市営バス、タクシードライバーなど組み合わせで総合的に一つの交通体系をつくりたい。

Q 東近江市では、てんぶら廃油を精製した燃料(BDF)を市営バスに使用しているが当市の環境施策に参考になるのではないか。

A (市民環境部長) 京都市、長野市、松本市ではBDFを公用車などに利用している。上越市の事例もあり、今後用途を含め研究させてもらいたい。

Q 中山間地域の土台づくり

A (市長) 中山間地域は里山と台をつくるものだが、災害を未然に防止することや農林漁業の振興にどれだけ力を入れるつもりなのか。

A (市長) 当市の山林、里山の自然の恩恵ははかり知れない。森林保全は市としても各方面に働きかけ努力したい。

A (産業観光部長) 中山間地の農業振興は農地の遊休・荒廃防止、環境保全、治水の面でも重要だ。緑の少年団の活動支援、学有林の整備、除間伐の整備支援、森林大学で里山保全に努めたい。

Q 当市の田園都市構想は都市と田園、自然と開発のバランスが必要と思うがどうか。

A (助役) 当市は田園都市の形態をなしていると思う。田園の占めるウェイトは高く、安曇野ブランドとしてイメージつけて多くの人に訪れてもらいたい。



市営バス「潮沢線」